



TITLE:

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"に打ち上がったクマノコガイの大型個体

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"に打ち上がったクマノコガイの大型個体. 本覺寺杼貝 2015, 74: 31-32

ISSUE DATE:

2015-01-21

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/193662>

RIGHT:

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に 打ち上がったクマノコガイの大型個体

久保田 信

はじめに

腹足綱ニシキウズガイ科に属するクマノコガイ *Chlorostoma xanthostigma* A. Adams, 1853 (Gastropoda, Trochidae)は、福島県・能登半島以南の潮間帯から水深 20 m の岩礁に生息する (佐々木, 2000)。過去 20 年余り、毎日の様に京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で漂着物調査を実施し、本種の打ち上げは既に報告しているが (久保田・小山, 2002)、今回、2014 年の春から夏にかけて、とりわけ大型の個体が複数発見されたので報告する。

結果と考察

2014 年に多数打ち上がった本種の貝殻の中で格段に大きなものが 3 個体あり、それぞれ殻幅が 35, 32, 32 mm に達し (図 1, 2)、本種の標準個体 (殻幅 20 mm 前後) (佐々木, 2000) を大幅に上回っていた。いずれの貝殻も本種に特徴的な平滑で肋のない殻表面となっており、臍孔は開いておらず、緑色がかった臍部を除き全体が黒色であった (図 1, 2)。ただし、最大個体を含む 2 個体は殻頂部が破損していた (図 2)。



図 1, 2. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所

“北浜”に打ち上げられたクマノコガイの大型の貝殻
(図 1 左: 腹面; 図 2 右: 上面)。

この様な大型個体の白浜町での記録としては、今回発見された最大個体よりも一回り大きい殻幅 37 mm の個体が、1980 年 5 月に和歌山県白浜町の湯崎海岸の磯で採集されている (真鍋, 2005)。

引用文献

- 佐々木猛智. 2000. ニシキウズガイ科. 奥谷喬司(編著) 日本近海産貝類図鑑, pp. 54–83. 東海大学出版会, 東京.
- 久保田 信・小山安生. 2002. 番所崎, 特に“北浜”(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録(1). 南紀生物, 44: 69–76.
- 真鍋 燮. 2005. クマノコガイ. 本覺寺杼貝, 45: 30.

くぼた しん (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459
京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)